

## オオコノハズク

*Otus lempiji semitorques*  
Temminck & Schlegelフクロウ目  
STRIGIFORMES  
フクロウ科  
Strigidae

## カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

選定理由

県内分布 平地から山地の森林に生息する留鳥。

分布域

北海道、本州、四国、九州で留鳥。琉球諸島には亜種リュウキュウオオコノハズク(*O.l. pryeri*)が留鳥。

朝鮮半島、中国全域、東南アジア全域で留鳥。

生息環境

平地から山地の森林に生息し、大木の樹洞で繁殖する。ネズミ類、トカゲ類、小鳥類などの小動物を捕食する。

現 状

全国的に個体数が極めて少ない。繁殖に利用する大木が減少している。県内の観察記録は、中津平野と文殊仙寺の3回のみである。

備 考

種オオコノハズクが、ワシントン条約附属書Ⅱ。*Otus bakkamoena*と同じ。

## アオバズク

*Ninox scutulata japonica*  
(Temminck & Schlegel)フクロウ目  
STRIGIFORMES  
フクロウ科  
Strigidae

## カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

選定理由

平地でも山地でも、繁殖に適した大木が減少している。

県内分布

平地から山地の林に生息する夏鳥。

分布域

種アオバズク(*N.s. japonica*)は北海道、本州、四国、九州で夏鳥。奄美以南は亜種リュウキュウアオバズク(*N.s. totogo*)が留鳥。朝鮮半島、中国北部、東北部で繁殖。中国中部、南部、台湾、フィリピン、インドシナ半島で越冬。

生息環境

広葉樹林と針広混交林に夏鳥として生息し、大木の樹洞で繁殖し、薄暮時に飛翔性昆虫や鳥類を捕食する。

現 状

自然林で営巣する環境が減少し、社寺林や公園林などに営巣している。

備 考

種アオバズクは、ワシントン条約附属書Ⅱ

## フクロウ

*Strix uralensis fuscescens*  
Temminck & Schlegelフクロウ目  
STRIGIFORMES  
フクロウ科  
Strigidae

## カテゴリー

大分県  
環境庁 掲載なし

選定理由

平地でも山地でも、繁殖に適した大木が減少している。

県内分布

全県の平地から山地の林に生息する留鳥。

分布域

種フクロウは北海道、本州、四国、九州に留鳥。亜種キュウシュウフクロウ(*S.u. fuscescens*)は千葉以南の太平洋岸、四国、九州に留鳥。中国東北部、シベリア南部、サハリンに留鳥。

生息環境

平地から亜高山帯の針広混交林、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、農耕地などに生息し、大木の樹洞やカラスなどの古巣などに営巣する。夜行性で、ネズミやウサギなどの小動物、小鳥類などを捕食する。

現 状

平地では営巣することができる木が激減している。営巣に適した老大木があれば、都市部でも繁殖する。

備 考

大分県内に生息するのは亜種キュウシュウフクロウである。種フクロウはワシントン条約附属書Ⅱ